

こうかい ひこうかい べつ  
公開・非公開の別

■ 公開  部分公開  
 非公開

## 第4回浜松市外国人市民共生審議会会議録

- 開催日時 令和3年2月19日(金) 午後2時00分から午後4時00分
- 開催場所 オンライン会議システム ZOOM
- 出席状況  
委員 シム キュマン (韓国)  
杉野 アドリアーナ (ブラジル)  
鈴木 エバ (フィリピン)  
妹尾 圭持 (知識経験者)  
孫 玉傑 (中国)  
丹野 清人 (学識経験者)  
ファム トウイ フォン (ベトナム)  
レニ ブラエニ (インドネシア)  
事務局 国際課 課長 鈴木 三男  
国際課 課長補佐 松井 由和  
国際課 古橋 広樹  
国際課 影山 侑里奈
- 傍聴者 2人 (一般: 0人、記者: 2人)
- 議事内容 (1) 中間とりまとめ案の確認  
(2) 浜松市の外国人の子どもの状況について  
(3) 意見交換
- 会議録作成者 国際課 影山 侑里奈
- 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 有  無

## 8 会議記録

### (1) 開会・挨拶

《国際課長挨拶》

### (2) 中間とりまとめ案の確認

《事務局より資料に基づき説明》

レニ委員：外国人市民の高齢化について調べたところ、2019年1月時点で、静岡県は日本で5番目に外国人の高齢化が進んでいる県であることが分かった。周りのインドネシア人の間でも、老後の話が現実的になってきている。老後の不安を減らすために、今のうちから何を準備しておけばいいのか、老後について考えるセミナーを早めに開催したほうが良い。

アドリアーナ委員：先月、浜松国際交流協会が市からの委託事業で高齢者に関するセミナーを開催していた。そのセミナーでは、介護保険や老人ホーム、デイサービスの話があり、良い内容だった。今回のセミナーはブラジル人が対象ということで日本語とポルトガル語のみだったので、他の言語でもできると良い。

また、在東京ブラジル総領事館のホームページでは、ポルトガル語で作成した社会保障制度や亡くなったときの手続きに関するマニュアルを公開している。ポルトガル語だけでなく、他の言語に翻訳し、それぞれのコミュニティでも配布できると良い。

丹野委員長：そのマニュアルを多言語で翻訳・改良することを市のほうで検討すると良い。また、浜松国際交流協会で実施しているセミナーをYouTubeなどにアップロードしておき、いつでも見られるような状況にするとともに、翻訳をつけるようにすると効果的である。

孫委員：全国心臓病の子どもを守る会が、社会保障制度についてまとめた冊子を出版している。この冊子には、医療費や、障がい者手帳のことなどが書かれている。このような冊子の外国人向けのものがあると良い。

シム委員：本や冊子よりも、動画の方が便利だと思う人も多いのではないかと。翻訳字幕付きの動画にすれば、スマートフォンやパソコンがあればいつでも見られるし、探し出すことも簡単である。

エバ委員：セミナーの開催時期やタイミングは、外国人市民が来やすいように設定するのが大事である。

フォン委員：セミナーを単独で開催しても、積極的に参加するベトナム人は少ないと思う。そこで、旧正月などの大きなイベントの1プログラムとして同時開催すれば、興味を持ってもらうきっかけとなる。また、ベトナム人はよくFacebookを利用するので、Facebookでも投稿して周知すると良い。

妹尾委員：セミナーという形だと、意識が高い人は参加する。しかし、そうでない人にも情報が入ってくるようにするのが大事。

社会保障制度は、内容が変わることもある。冊子や動画などで周知する情報が古いものにならないように、アップデートについても考えていく必要がある。

レニ委員：制度の紹介ガイドができた時や、更新する時など、市は外国人コミュニティに積極的に情報提供してほしい。各コミュニティはそれを受けて、コミュニティの中で情報を拡散したり、翻訳したりすることができる。

インドネシア人も、セミナーに参加する意識は高くないと思う。今度浜松インドネシア友好協会で、インドネシア人と日本人が交流するイベントがある。そういったイベントの際に、老後について話を出せることができれば良いと思う。

### (3) 浜松市の外国人の子どもの状況について

《事務局より資料に基づき説明》

レニ委員：浜松市に暮らして20年ぐらいになるが、和合に青少年の家があることを最近知った。浜松市民なら誰でもそうした公共施設を使えるということを周知し、外国人市民にももっと有効活用してもらえるようになると良い。

孫委員：友人の中国人家族の子どもが、文化の違いからか、学校でいじめなどもあり馴染めず不登校になっている。外国人の子どもの親と、日本人の子どもの親との間で交流が不足しており、それが原因で壁が生じているように感じる。その友人は、中国人コミュニティの中で過ごすことが多く、日本人の友達ができていないようだ。

自分は、イベントやボーイスカウトの活動などに参加することが多いが、そこでは自分以外の外国人をあまり見ない。もっと外国人もイベントに参加して、保護者同士の交流がある方が良いと思う。

丹野委員長：自分の子どもが小学生だったとき、似たような経験をした。周りに外国人の親を持つ子どもがいたが、親同士のコミュニケーションの有無で、子ども同士の関係が変わると感じた。子ども同士の関係も大事だが、親が知り合い同士の方が子ども同士の関係も良くなると思った。親同士も交流ができていくということが重要であると思う。

エバ委員：長く日本に住んでいても、フィリピン人の中には日本語を話すことが難しいと感じる人が多い。家の中では母国語を使って生活しているため、日本語での授業についていくのが難しい。

将来安定した仕事に就くために、全日制の学校に進学したいと思っても、成績が足りなく定時制に行く子どもが多い。高校入試を控える子どもの親も、私立と公立の違いなど、学校の種類についてよくわかっていない人が多い。

アドリアーナ委員：外国人の子どもは定時制に行く人が多いが、全日制と定時制の違いについてもっと説明が必要だと思う。家から遠い学校でも良いので、全日制に行く選択肢をもっと案内してあげた方が良く思う。

シム委員：学校がどこまでサポートすべきか基準が必要であると思う。すべてを学校に求めるのは難しいので、情報を欲しい人が、インターネットや友人の情報なども活用し、勉強して、子どもの進学をサポートしていけばよいと思う。

レニ委員：外国人の方もある程度日本語の能力を上げていけば、自分で調べられることが増え、人に頼ることも減っていくと思う。外国人の日本語能力向上に対する意識啓発も大切である。

アドリアーナ委員：高校進学についての説明や情報提供は、学校側で積極的に行ってほしい。学校から説明がないと、仕事が忙しい親や日本語が話せない親など、親から進学についてサポートを得られない子どもは困ってしまう。

フォン委員：学校から進学について説明があるのは、大体中学2年生や3年生の頃からだだが、それでは遅いと思う。小学生のうちから早めに詳しい説明がある方が良い。親からしてみても、子どもが中学2年生や3年生になって、いきなり子どもの進学のサポートするのは難しい。参観会など、外国人の親もよく参加するようなイベントの後に進学の説明があるとさらに良い。

エバ委員：勉強ができる子どもなら、定時制ではなく積極的に全日制に行った方が良く。

丹野委員長：神奈川県でも外国人の子どもが多くが定時制に進んでいる。定時制を卒業しても、すぐに就職できるというわけではない。そこで、職業学校に進むという選択肢を紹介したい。神奈川県には、神奈川県立総合職業技術校があり、この学校を卒業した人のほとんどが就職できていると聞く。高校を卒業したら大学進学しかない訳ではないので、いろいろな選択肢を考えていくのも大切である。

アドリアーナ委員：浜松NPO ネットワークセンター (N-Pocket) のWebサイトでは、高校進学の仕組みや用語などの情報が多言語で掲載されている。これを参考にするのも良い。

シム委員：浜松市の外国人の子どもは定時制に通う人が多いのか？また、その理由は？

事務局 (松井)：定時制に通う人が比較的多い傾向がある。通うための費用が安かったり、子ども自身が行きたいと考えていたり、定時制に通う理由は様々であると思う。

丹野委員長：一般的な理由としては、試験の難易度が全日制に比べ低いことが挙げられると思う。

アドリアーナ委員：ブラジルにも定時制はあるが、日本の定時制と異なる。ブラジルの定時制は全日制と同じ内容を勉強するが、日本の定時制はそうではない。そういった違いを分かっている

ひとがおお おも  
い人が多いと思う。

せのおいじん がいこくせき こ にゆうしわく ぜんにちせいこうこう  
妹尾委員：外国籍の子どものための入試枠がある全日制高校もある。そういった高校の情報を  
きょうゆうするとよいと思う。また、えいごいがい げんご にゆうし ひょうか  
共有すると良いと思う。また、英語以外の言語も、入試で評価してもらえるようになると良い  
と思う。

たんのいいんちやう こんねん ど だいがくにゆうし きやうつう ほじ にじしけん えいご しけん おこな だいがく  
丹野委員長：今年度の大学入試から共通テストが始まり、二次試験で英語の試験を行う大学が  
すくなくなつた。えいご しけん おこな か 代わりに、えいけん がいぶしけん けつかりよう  
少なくなった。英語の試験を行わない代わりに、英検などの外部試験の結果を利用する。東京  
とりつだいがく いちぶ にゆうしたんい えいご にほんごのうりよくしけん そうどう がいこくごしけん  
都立大学では、一部の入試単位で、英語だけでなく、日本語能力試験のN2相当の外国語試験も、  
にゆうし がいこくごしけん ひょうか 外国人の子どもは、ほこくご わす  
入試の外国語試験として評価するようになった。外国人の子どもは、母国語を忘れないようにす  
ると、だいがくにゆうし ときの のりよく えいご  
と、大学入試の時に能力を生かすことができる。英語以外の言語でも入試で評価されるこの  
ような仕組みは、こんごひろ 現在にゆうし ひょうか  
今後の仕組みは、今後広がっていくのではないかと思う。現在は大学入試だけだが、今後は高校  
にゆうし か  
入試も変わってくるかもしれない。

いじん がいこくじん こ じやうきやう いぜん かいぜん じゅうすうねんまえ ちゅうがく かよ  
アドリアーナ委員：外国人の子どもの状況は、以前より改善している。十数年前は、中学に通  
うことに関しても課題があったが、げんざい こうこう せんたく かん かがい  
現在にゆうし ひょうか  
現在は高校の選択に関することが課題になり、レベル感が上がった。今後は、こうこう  
今後は、高校でしっかり勉強して大学に進学し、あんてい しごと  
安定した仕事に就けるようになると良い。  
はままつし じん おお そうりやうじかん  
浜松市はブラジル人コミュニティが大きく、総領事館もあり、サポートが手厚い。コミュニティ  
が小さい国の人にもサポートが行きわたるようになると良いと思った。

## 9 事務局からの連絡事項

### 10 閉会